

飛びたて、 矢板が誇る若き翼

公式戦のユニフォームを身にまとい整列する矢板中央高校サッカー部の皆さんは、全国高校サッカー総合体育大会（高校総体）栃木予選を勝ち抜き、5大会連続12回目の全国大会へチャレンジします。

試合前には、サポーターからの応援歌に目を閉じ耳を澄ませ、精神を統一します。愛と勇気、そして熱い思いがたくさん詰まった応援歌を受け止め、チームの心をひとつにし、士気を高めます。

ピッチに立つ選手たちは、自分の未来を切り開くため、今日まで共に練習を積んできた仲間のため、いつも支えてくれるサポーターのため、戦いに挑みます。日本一という頂点を目指して――

今月号では、6〜7月にかけて行われた高校総体などの県予選に勝利し、全国大会へ駒を進めた高校生の活躍を紹介しします。
矢板市も全国へはばたく皆さんを応援するサポーターとして、矢板が誇る若き翼の輝きをお伝えします。



Yaita vol.1160 広報やいた 2023年8月号

CONTENTS 目次

- 2 特集 飛びたて、矢板が誇る若き翼
- 8 地域おこし通信・ヤイタゴハン ほか
- 10 子育てひろば・図書館へGO！ ほか
- 12 今月のニュース&トピックス
- 13 はつらつ通信
- 14 市からのお知らせ
- 28 ゆかりびと・編集後記

COVER 表紙の写真

表紙は、それぞれの種目の選手をコラージュし、背景には、彼らを支える矢板市をイメージして、矢板市の市章風イラストを添えました。

選手の皆さんの活躍を応援するとともに、矢板市からのエールを込めて、今回の特集をイメージして作製しました。



POPULATION 人口(7月1日現在)

30,697人 (△12)	出生	9人
男 15,284人 (3)	死亡	23人
女 15,413人 (△15)	転入	64人
13,357世帯 (7)	転出	62人
()内は6月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出	
△は減		



絆

仲間と交わした約束を、共に成し遂げる



仲間と共に、日本一へ
特にキャプテンの井上は、チームで一番「熱い男」です。練習でも試合でも、チーム全体に声かけをし、鼓舞してくれます。彼がいてくれたからこそまでチームワークの良い仲間になれました。このチームで、全国制覇を狙うチャンスは、この高校総体と冬の選手権の残り2回。今まで負け分、フィールドに立てない仲間の分、みんなの思いを感じながら、自分たちのサッカーで勝ちにいきたくいです。そして、応援してくれる人や支えてくれる人、両親への感謝の気持ちを忘れずに、悔いの残らない戦いをしたいと思います。

いまだない「日本一」という称号を勝ちとり、ぼくたちが矢板中央高校の歴史を塗り替えられるようがんばります。



矢板中央高校 サッカー部

(左から) 小森 輝星さん・梶谷 皇光斗さん



矢板東高校定時制 バドミントン部

(左から) 平山 夢さん・齋藤 理音さん・先山 はるなさん

仲間と息の合ったプレーを
私たちは、県予選で上位6人中に入り、他の学校から選出された選手と共に、栃木県団体戦チームとして全国高校定時制通信制体育大会へ挑みます。合同練習会を通じて他の学校の選手とダブルスを組むこともあり。慣れないパートナーと共に戦う場合、お互いに声かけがとても重要になります。しかし今年、私たちの学校から3人も選出され、いつも一緒に練習している仲間と共に戦えるので、とても心強いです。今年の栃木県代表の強みは、「息の合ったコンビネーションプレー」と胸を張って言えるよう、練習に励みます。昨年に続き2回目の出場になりますが、昨年より良い成績が残せるようがんばります。

乙

緊張・不安を乗り越え、

たくましい心を手に入れる



練習を信じて、自分らしく
今回高校総体に出場する選手は、県予選大会に挑む中、それぞれにドラマがありました。小学生の頃から矢板高校の相撲場に通い、今日まで相撲一筋に練習を積んできた人けがを負って痛み止めとテーピングで挑んだ人、相撲歴半年の人。みんなそれぞれに悩み苦しみながら、自分の戦いに勝ち、全国への切符を手に入れました。

私たちの主な仕事は、練習の後に食べるおにぎりを用意すること。みんなの体が強くたくましくなるよう、少しでも役に立てればと思います。いろいろな味付けを考え、毎日一升分のおにぎりを手づくりしています。全国大会では、毎日の練習を信じ、自分を信じて、自分たちらしくがんばってもらいたいです。



矢板高校 相撲部

マネージャー (左から) 船山 はるかさん・神山 玲菜さん



矢板中央高校

(ボウリング全日本ユース代表) 人見 皇己さん

いつか世界の舞台へ

小学3年生の時、母の職場であるボウリング場から、マイボールをもらったことをきっかけに、ボウリングを始めました。楽しくて夢中で練習していたら、指をけがしてしまいボウリングができなくなりました。その時出会った投法が、両手投げです。両手で投げることで、人よりも回転が強くカーブするボールを投げられるようになり、自分の大きな武器となりました。そして今年4月、栃木県としては初めての全日本ユース代表選手に選ばれました。結果が残せず悔しかった昨年のとちぎ国体をバネに練習に励んできたので、今回の全日本高校選手権はもちろん、どんな大会でも結果を残し、技術面・精神面共に強い選手になり、国際大会出場を目指します。



矢板中央高校 ソフトテニス部

(左から) 八木澤 優杏さん・関谷 彪さん

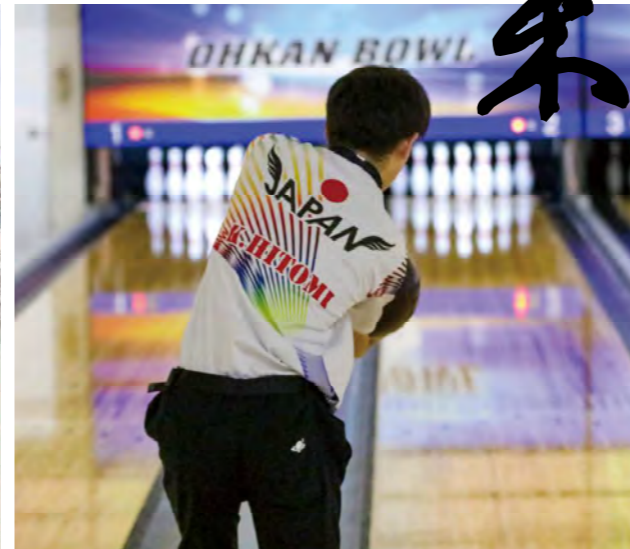
まずはみんなで初戦突破を

個人だけでなく、団体でも高校総体県予選を勝ち抜いたことは、チームとしての自信になりました。みんなで声を出し、一丸となって戦ったことで結果が出せたのだと思います。つらい練習を共に乗り越えてきたこのメンバーだからこそ達成できたと感じています。

自分たちのチームの持ち味はとにかく粘り強いことです。走り負けない体力でラリーをつないで、チャンスを持つ粘り強さがあります。

団体戦の初戦は、鳥取県米子松陰高校。強豪校ですが、自分たちの得意な展開に持っていければ、勝ち筋が見出せると思います。

このメンバーでの大会はこれが最後になります。仲間を信じ、全員が悔いの残らない大会にしたいです。



未来

大志を胸に、それぞれの道へ



全国高校総合文化祭

矢板中央高校 新聞部

(左から) 渡邊 公喜さん・部長 高瀬 航太さん

昨年に引き続き、学校新聞「中央ぶれす」が県コンクールで最優秀賞を受賞しました。毎月発行している壁新聞も、年2回のダイジェスト版も、読み手のことを考え、わかりやすく読みやすい記事になるよう心がけています。

全国大会で受けたたくさんの刺激を、しっかりと後輩へつなげ、伝統ある新聞部の未来に役立てたいです。



矢板中央高校 文芸部

(左から) 石川 璃奈さん・部長 宮川 菜さん

1年生の石川さんは、俳句で関東大会へ、3年生の宮川さんは、短歌で総文祭へ出場します。二人とも普段から読書が好きで、その中の気に入ったフレーズをヒントに作品を考えたり、ふっと浮かんだワードを使ってみたり、何気ない日常の一コマを決められた文字数で表現することのおもしろさと難しさを楽しんで活動しています。



矢板東高校

(左から) 永山 結子さん・久保木 小花さん・君島 樺恋さん

かわいらしく、おいしそうなおパフェをイメージしたドレスをデザインしました。専門学科の高校生の作品がたくさんある中で選ばれ、驚きましたが、自信にもつながりました。

今は、全国大会に向けて実際に着用するドレスの作製に取り組んでいます。全国レベルの作品に触れ、たくさんのことを吸収して、将来につなげていきたいです。



矢板東高校 リベラルアーツ同好会

タイトル 「栃木県北部の養蚕業と猫神信仰」

県北地域には「猫像」が多いことに疑問を持ったことがきっかけで、カイコから生糸をつくる養蚕業で、ネズミが天敵であることに結びつきました。猫神信仰や雷信仰と地域との関係性など、さまざまな発見がありました。

自分たちの研究発表が、全国大会でどのように評価されるか楽しみです。がんばります！